



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 奥石 信
令和6年度 第2号
2024.5.15

修学旅行に行ってきました。



本校3年生が5月8日(水)～10(金)日の2泊3日で奈良・京都に修学旅行に行ってきました。3日間とも天候に恵まれ、初夏の古都を楽しんで巡ることができました。また、大きく体調を崩すこともなく、予定通りの行程を無事終了することができました。旅行中の子どもたちの様子は、さくら連絡網や学校ホームページで随時紹介させていただきましたが、子どもたちの笑顔がたくさんあふれた3日間となりました。私も団長として一緒に参加してもらいましたが、見学場所や宿舎、体験先、バス、新幹線の中で、子どもたちの笑顔や楽しそうな会話をたくさん見聞きし、とても幸せな気分になりました。また、3日間を通じて学年集団として“5分前行動”が徹底できており、静岡駅の乗り換えや奈良公園での集合、2日目・3日目の朝の出発等の場面でも混乱することなく、スムーズに行動ができ、学年集団としての成長を感じました。



数年前には新型コロナウイルスの流行により修学旅行等の行事を変更・中止せざるを得なかった状況があったことを思うと、修学旅行を“普通”に実施できる“喜び”や“ありがたさ”を実感しました。子どもたち一人一人の中学時代の思い出に“修学旅行”という大切な1ページを残すことができ本当に良かったと思っています。全員が3日間予定していた内容を滞りなく行うことができたのも、各ご家庭の事前の準備や健康管理のおかげだと感じています。本当にありがとうございました。



これから3年生の皆さんは修学旅行のまとめの学習に入っていきます。一人一人が3日間を丁寧に辿りながら、自分の感じたことをきちんと言葉と文章にし、3日間の記憶を確かな記録として“オンリーワンの旅行記”を作成してください。また、自分自身の3日間の行動を振り返り、「できたこと」(成果)と「もっとこうすればよかった」(課題)を整理し、これからの学校生活に生かしていってほしいと思います。「一つの終わりは一つの始まり」です。修学旅行という行事は終わりましたが、大事なことは、この経験を日々の学校生活にどう生かしていくかです。これからの3年生に大いに期待しています。

風薫る五月。山も空も美しいです。



俳句の夏の季語に「風薫る」というものがあります。初夏の若葉の香りをのせた爽やかな風のことを指し、季節で言うところのちょうど今頃にあたります。一年の中で一番過ごしやすい時期です。

校歌の一番「青春の光湧き出づる 緑が丘の台地にて……」の歌詞のとおり、本校は高台に立地しているため四方の景観に恵まれており、富士山、南アルプスなど、日本を代表する山並みを日常的に目にすることができます。これは、双葉中が他校に誇れる“大きな自慢”の一つだと、山好きの私は密かに思っています。中でも、一番気に入っているのは、新館3階の廊下の窓越しに見える、甲斐駒ヶ岳と鳳凰三山の眺め(写真右: 甲斐駒ヶ岳、左: 鳳凰三山、2024.5.14撮影)です。特に、今の時期は、手前の山の新鮮

緑と、雪の残る甲斐駒・鳳凰の青く白い峰、その頭上に広がる空の爽やかな水色の取り合わせが、目にも鮮やかで、心が明るく、ふっと軽くなります。

中学生の日々は、毎日忙しく、時間に追われる学校生活ですが、ぜひ、時折、目線を上げて、眼前に広がる美しい山々や頭上に広がる空の大きさを見つ、深呼吸を一つしてください。気分が少しだけ新しく軽くなりますよ。慌ただしい毎日だからこそ、意識的に一息つく時間を学校生活の中で作ってみてください。ふるさとの自然は人に力を与えます。

最後に、明治時代の歌人である石川啄木の短歌を紹介します。

「ふるさとの山に向かひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな」(『歌集 一握の砂』より)